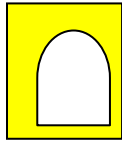


日吉台地下壕保存の会会報



第123号

日吉台地下壕保存の会

第23回 横浜・川崎平和のための戦争展開催のお知らせ

運営委員 亀岡敦子

「戦争の世紀」とも呼ばれた20世紀が終わったとき、なにも根拠はないのだけれど、21世紀は「戦争のない世紀」になるのではないか、という明るい期待が世界中に広がったように思えました。戦後55年目の年でした。しかしそれは、その年の9月11日、テレビ画面いっぱい、すぐには現実と信じられないような同時多発テロによって、打ち砕かれました。そしてそれからは、連鎖のように紛争や内戦が続き、世界中に拡散し、何万人何十万人の罪なき人びとが戦争に巻き込まれています。

湾岸戦争以後の戦争はまるでテレビゲームのようで、人間の気配を消した「軍事施設への空爆」が、淡々と夕方のニュースで伝えられました。都市の破壊、人間の死、人生と未来の破壊、悲嘆と憎悪など、まるで存在しないかのようです。心あるジャーナリストのまさに命懸けの現地報道により、私たちはその戦争の実相の一端に触れることが出来ると言っても過言ではありません。現代の私たちは、よほど知識と感性を豊かにしない限り、「戦闘地域にも日常生活があること」を見過ごしてしまいます。

戦後70年目に於て岐路に立たされた、この日本においては、過去から学ぶことは何より重要なことと言えるでしょう。その手助けをするのが、私たちが保存活動をしている地元神奈川に残る戦争遺跡です。日吉台地下壕や登戸研究所などの写真や実物資料、地図などの展示と、研究発表やシンポジウムを行います。「若者の発表」は高校生が、自分の感性で捉えた戦争遺跡についての研究発表です。戦争の記憶を記録とし、次世代へとつなげる。このような若者の存在は、私たちの希望です。多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

第23回 横浜・川崎平和のための戦争展

日吉台地下壕・登戸研究所を
国の登録文化財に

12/5(土)・6日(日) 9:00-17:00
★展示 (来場者イベント等)
写真パネル・実物資料・調査研究資料・展示地図など
日吉台地下壕／登戸研究所／川崎中原の空襲・戦災／港北の空襲／東部 62 部隊

12/6(日)
10:00-12:00
★若者の発表 (来場者イベント等)
横浜市の高校生による戦争遺跡研究の報告など

13:00-16:00
★シンポジウム《1945/2015 戦争遺跡は語る》
講演 山田 朗 (明治大学教授・明治大学平和教育センター所長)
パネリスト 阿久武武史 (日吉台地下壕保存の会)
今野 淳子 (登戸研究所保存の会)
對馬 勇 (川崎中原の空襲・戦災を記録する会)
大泉 雄彦 (みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会)

2015年12月5日(土)・6日(日)
慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎
(東急東横線・市営地下鉄「日吉駅」から徒歩3分／入場無料)

目 次

巻頭言	第23回横浜・川崎平和のための戦争展開催	P1
お知らせ	第23回横浜・川崎平和のための戦争展2015	
実施要項	(趣旨および経緯など)	P2-3
報告	第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム(続報)	
・特別分科会	(米占領軍の館山上陸と直接軍政／証言者のつどい)	P3-4
・フィールドワーク	(宇佐、大刀洗、そして館山へ)	P4-5
報告	日吉フェスタ2015に参加!	P6-7
連載	戦争体験者の聞き取り／航空本部地下壕で勤務した女性理事生のお話(第二回)	P8-12
連載	地下壕施設アレコレ／地下壕の穴掘り作業1日に何メール進む?(第15回)	P12
聞き取り	連合艦隊司令部高級将校は車で地下壕へ	P13
お知らせ	第10期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座	P14
お知らせ	田園調布学園で実施の恒例の見学会	P15
お知らせ	平成27年度地域のチカラ応援事業中間発表会および交流会	P15
活動の記録	平成27年9月～10月	P16

お知らせ**第23回 横浜・川崎平和のための戦争展2015実施要項****1. 趣旨および経緯**

今年は戦後70年目にあたり、戦争の記憶が「人から人へと伝わる」ことが難しくなってきました。同時に戦争期につくられた「物」も、70年の年月を経て次第に消え去り、「物から考える」ことも困難になってきました。そうしたなか、「あの戦争は正しかった」などと伝えようとする風潮も現れてきています。歴史を忘却し、再び新たな戦争を準備する動きさえ感じられます。

私たちは「歴史から学び、平和な日本を創る」ために、23年前から「横浜・川崎平和のための戦争展」を続けてきました。私たちの生活の場である神奈川県にも、戦争の実相を伝える「物」が残されているからです。横浜市港北区に残る海軍日吉台地下壕の保存運動や、川崎市多摩区に残る陸軍登戸研究所の保存運動などを息長く続けてきました。

陸軍登戸研究所は市民による保存運動などの成果で「明治大学平和教育登戸研究所資料館」として保存・活用されています。また、海軍連合艦隊司令部地下壕も慶應義塾が保存し、見学会開催を許可しています。私たちはこうした戦争遺跡を、国の登録文化財として保存すべきと考えます。

私たちは、この二つの戦争遺跡だけではなく、高津区に残る海軍蟹ヶ谷通信隊地下壕の保存運動や、中原区の空襲・戦災を記録する取り組み、また宮前区の東部62部隊を語り継ぐ取り組みなどを行ってきました。

こうした成果を報告し、同時に戦争遺跡を軸として戦争の真実とは何だったのかをともに考えたいと思います。会場は、まさに海軍に使用された歴史を持つ慶應義塾日吉キャンパスです。

12月5日(土)・6日(日)の2日間、来往舎イベントテラスにおいて写真・調査資料・実物資料などを展示し、それぞれの戦争遺跡について多くの方に知っていただきたいと思います。今年は新たに東部62部隊を語り継ぐ会も仲間に加わり、展示の幅が広がると思います。

6日には、シンポジウムスペースを会場に講演会などが開かれます。午前の「若者の発表」では、今年は4組の高校生による研究発表が行われる予定です。戦後50年を経たのちに生まれた10代の若者たちは、戦争と戦争遺跡をどのようにとらえ考えるのでしょうか。午後は「1945/2015 戦争遺跡は語る」というテーマでシンポジウムを行い、近現代史研究の第一人者・山田朗氏による講演があります。その後、各参加団体代表の現状報告があり、これからの私たちの活動のあり方を話し合います。どなたでもご参加できますので、ぜひ日吉までお越しください。

2. テーマ 《日吉台地下壕・登戸研究所を国の登録文化財に》**3. 開催日程** 2015年12月5日(土)～6日(日) 9:00～17:00(両日とも)**4. 会場** 慶應義塾日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース・イベントテラス
入場無料 事前予約不要**5. 内容**☆展示 来往舎イベントテラス

5、6日 9:00～17:00

写真パネル・実物資料・調査研究資料・空襲地図など

日吉台地下壕／蟹ヶ谷通信隊地下壕／登戸研究所／川崎中原の空襲・戦災／
港北の空襲／東部62部隊☆若者の発表 来往舎シンポジウムスペース

6日 10:00～12:00

横浜市と川崎市の高校生による戦争遺跡研究の報告など

6日 13:00-16:00

講演 山田 朗 明治大学教授・明治大学平和教育登戸研究所資料館館長

パネリスト 阿久沢武史 日吉台地下壕保存の会

今野淳子 登戸研究所保存の会

對馬 芳 川崎中原の空襲・戦災を記録する会

大泉雄彦 みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会

6. 運営 横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会

7. 主催・後援・実施団体

主 催 横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会

後 援 横浜市港北区(予定)

実施団体 日吉台地下壕保存の会／登戸研究所保存の会／蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会／川崎中原の空襲・戦災を記録する会／みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会

8. 代表・副代表・顧問

代 表 阿久沢武史 日吉台地下壕保存の会

副代表 姫田光義 登戸研究所保存の会／長谷川崇 日吉台地下壕保存の会／大図建吾 登戸研究所保存の会／渡辺賢二 登戸研究所保存の会／對馬 芳 川崎中原の空襲・戦災を記録する会／大泉雄彦 みやまえ・東部 62 部隊を語り継ぐ会

顧 問 白井 厚 慶應義塾大学名誉教授

新井揆博 日吉台地下壕保存の会・蟹ヶ谷通信隊地下壕保存の会

連絡先 亀岡敦子 TEL&FAX 045-561-2758 森田忠正 TEL&FAX 044-911-2726

報告

第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム千葉県館山大会(9/6) 続報

☆特別分科会「米占領軍の館山上陸と直接軍政／証言者のつどい(9/6)」報告

運営委員 亀岡敦子

今大会では例年の3分科会に加えて、特別分科会「米占領軍の館山上陸と直接軍政／証言者のつどい」が開かれ100人以上の参加者が、館山ならではの報告にききいった。あまりに内容が目新しく濃密なので、それを伝えることは手に余るが、概要を書き留めたい。

最初に2011年5月に「BS歴史館」で放映された「それはミズーリ号から始まった～日本の運命を分けた2日間より」を観て、番組制作者の佐野達也さん(テレビマンユニオン)

から9月2日の降伏文書調印後、GHQは日本を直接軍政下に置こうと準備していたこと、それを阻止したのは外務大臣重光葵と終戦連絡中央事務局長岡崎勝男の、マッカーサーへの直談判であったこと、などが報告された。私は初めて知ることばかりだった。

次に高橋博夫さん(元教育長)から「館山海軍航空隊と赤山地下壕の建設から占領軍との交流」と題



1945.9.3 AM9:20 館山に米占領軍初上陸

提供: NP0 法人安房文化遺産フォーラム・米国テキサス軍事博物館

する報告があった。館山は関東大震災で海が隆起し、そこを埋め立てて 1928 年から航空隊の建設が始まり、そのために多くの家が疎開させられた。館山の南側の赤山に地下壕建設が始まり、ズリ運搬のために疎開させられた家々があった。地下壕建設は 40 年ころからだったと記憶している。米軍の上陸は 8 月 30 日で、先遣隊は上着を脱いだようなラフな格好の兵士もいた。資料と少年時代の体験に基づいた報告は、説得力があった。

3 番目「館山海軍航空隊と青山学院水泳部合宿所～アジア太平洋戦争開戦をめぐって」は、佐藤隆一さん（青山学院高等部教諭）が、青山学院が館山市に 1926 年に建築した水泳部合宿所生活を語った。ところが赤山に隣接していた合宿所は、41 年に海軍に譲渡を余儀なくされた。これらの報告と並行して、愛沢伸雄さん（安房文化遺産フォーラム）からは、米国テキサス軍事博物館から入手した米軍館山上陸の写真や新資料をもとに、赤山地下壕の建設年と、米軍上陸の日時とその様子の従来の認識への疑問点が示された。

午後は 4 人の体験者の貴重な証言を拝聴した。

西村榮雄さん「安房中学の勤労働員～『学徒勤労働員日記 1945 年』から」

豊崎榮吉さん「本土決戦下の漁村～民防空監視哨と布良沖の駆潜艇撃沈」

加藤 誠さん「川崎地区への空襲（館山市那古）」

山口栄彦さん「野島崎への艦砲射撃～安房中生の犠牲と安房の本土決戦体制」

皆さん 85 歳前後の方々と、姿勢も声もはっきりと、当時のことを淡々と話された。些末とも思える個人の体験を記録し、記憶することが、戦後 70 年の今何より大切と参加者は実感したと思われる。

☆フィールドワーク（バスツアー）A コース（9/7）

～宇佐、大刀洗、そして館山へ～

田園調布学園教諭 川口重雄

敗戦から 70 年、戦後 70 年の夏、8 月下旬から 9 月にかけて大分県北部の旧・豊前豊後地方、福岡市、福岡県中部地方を旅行した。大分県宇佐市では亀岡敦子さんにご紹介いただいた用松律夫さん（戦跡保存全国ネット運営委員）、宇佐市教育委員会社会教育課長の佐藤良二郎さんのご案内で、宇佐海軍航空隊関係の戦跡——映画「永遠の 0」で使われた零戦 21 型の実物大模型がおかれた、米軍撮影の空襲などの映像が見られる宇佐市平和資料館、飛行場滑走路跡、城井 1 号掩体壕、レンガ造りの航空隊中枢部の遺構、航空隊門柱、第 35 代横綱双葉山の生家を保存した双葉の里に近い宮熊地区の沖合い 2 km に遺る艦爆標的（艦上爆撃機の練習標的、高さ 5 m 弱・直径約 10 m の円柱を中心に対角線の長さが約 100 m の六角形の頂点には小円柱があった。現存するのは円柱と小円柱 3 本）などを見学した。宇佐市では戦争資料の収集が続けられており、平和ミュージアムの建設を予定している。また福岡県筑前町では、陸軍航空隊大刀洗飛行場を中心とした大刀洗平和記念館（2009 年開館）、時計台跡、監的壕、頓田（とんだ）の森（1945 年 3 月 27 日の大刀洗飛行場を目標とした空襲で、B29 が投下した爆弾が立石国民学校の児童の避難した頓田の森を直撃、31 名が死亡した）等を訪ねた。宇佐でも 1945 年 4 月 21・26 日、5 月 7・10 日、8 月 8 日に B29 の空襲を受け、壊滅的な被害を受けている。一大軍都として発展した二つの町は、軍都であるがゆえに皮肉なことに多くの犠牲者（子ども



大巖院の四面石塔
（ハングルの古書体と漢字の部分）

が多い)を出して敗戦を迎えている。「軍隊は住民を守らない」というのは、地上戦が行われた沖縄戦争(「沖縄戦」というと、局所的な印象がないか。あらゆる住民を巻き込んだ全面戦争という意味で「沖縄戦争」の語を使う)の教訓だが、飛行場＝基地もまた住民に犠牲を強いるものだということを、現地を見学することで改めて確認した。

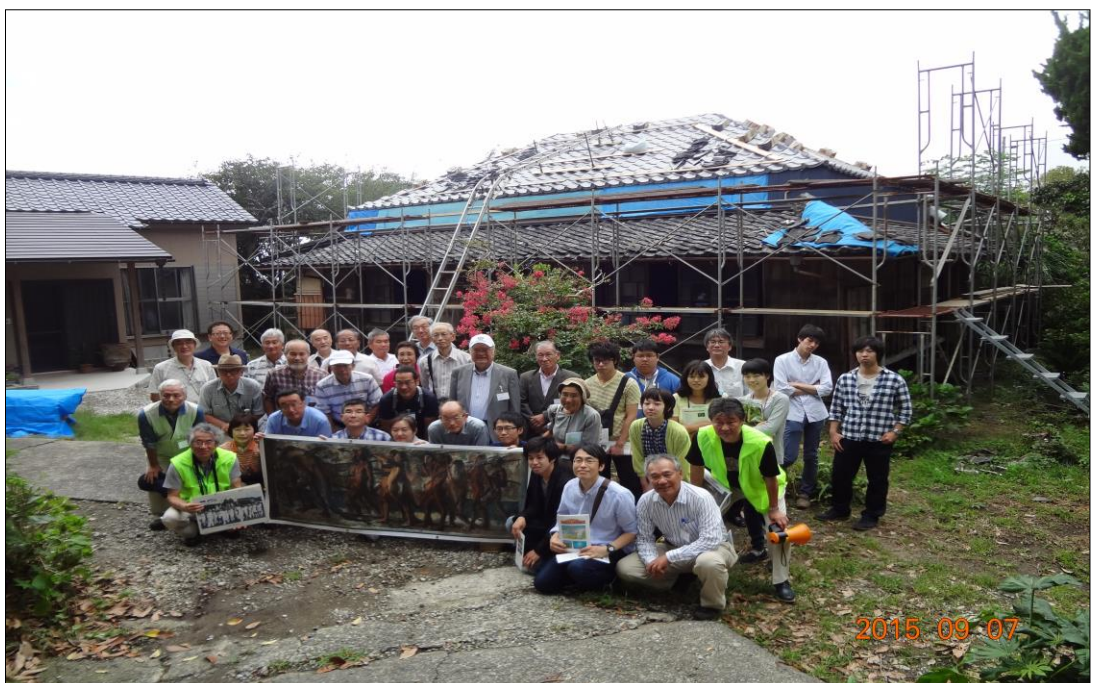
9月5日～7日に千葉県館山市で行われた第19回戦争遺跡保存全国シンポジウムのフィールドワーク(7日)で、アジア太平洋戦争の戦跡やさまざまな文化財を見学した。東京湾要塞地帯としての館山を訪れたのは3度目である。

2002年11月、第五福竜丸元乗組員・大石又七さんが代表の「築地にまぐろ塚を作る会」の戦跡ツアーで、初めて大房岬に遺る大砲の砲台跡・探照灯跡などや館山海軍航空隊赤山地下壕跡などを見たときには、そのままの姿で戦争遺跡が残っていることに驚いた(今回のシンポジウム特別分科会では、大戦末期の1944年ごろに建設されたとされてきた赤山地下壕が、実は大戦が始まる直前の41年秋までに工事が始められていたという史料・証言が報告された(詳しくは『館山海軍航空隊・赤山地下壕建設から米占領軍の直接軍政―「戦後70年」証言・調査記録集』NPO法人安房文化遺産フォーラム、2015年を参照))。

2回目は、今回の現地実行委員会の事務局長代行・池田恵美子さんによる座学とフィールドワーク。そして今回はNPO法人を立ち上げて「館山まるごと博物館」を運営する現地実行委員会事務局長・愛沢伸雄さん、池田さん、ポイントごとに説明してくださる館山市民の皆さんの案内で、1945年9月3日から6日までの4日間、日本本土で唯一米軍による直接占領が行われた館山に、米軍3500名が上陸した館山海軍航空隊水上機(飛行艇部隊)基地跡(現在では館山海上技術学校カッターボート艇庫)、特攻艇「震洋」基地跡、平砂浦演習場跡(車窓)、布良(めら)崎神社、青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅(補修中)、15世紀半ばから170年余りにわたり安房国を治めた里見氏の里見忠義の帰依を受けた雄誉霊巖(おうよれいがん)が1603年に開いた大巖院(たいがんいん)の四面石塔(千葉県指定文化財、漢字・中国篆字・インド梵字・朝鮮ハングル of 古書体で「南無阿弥陀仏」と刻まれている)などを廻った。

戦争遺跡に限らない、安房国の神話や中世までさかのぼる歴史、近世・近代水産業と館山の交叉する歴史、中国・朝鮮半島との交流、深津文雄牧師が創設した「かにた婦人の村」に立つ「噫(あゝ) 従軍慰安婦」と刻まれた石碑、そして戦争遺跡を平和に生かす取り組みなど。文字通り、自分たちの住む「まち」に誇りをもった人々が、訪ねた私たちを歩かせて、見せて、学ばせて、いつの間にか私たち自身が考えている。それが決して押し付けがましくない、すてきな「まるごと博物館」だった。

東京湾横断道路(海ほたる経由)で行けば、すぐそこが館山だ(東京駅から2時間弱)。春、菜の花の頃にふたたび訪ねたい。



修復中の小谷家住宅の前で

報告**日吉フェスタ2015に参加！**

毎年恒例の日吉と慶應の文化祭、年に一度のお祭り“日吉フェスタ”に今年も参加。

私たちは今年も展示と書籍販売に加え、恒例の“**ぶらーりキャンパスウォーク**”も行いました。今回は天候にも恵まれ、午後1時と2時のツアーに合計41名もの参加者のご案内となり、アンケートにもたくさんの方々に応えて頂き右のような結果となりました。

今年は、日吉商店街にも繰り出すお神輿パレードも開催され、盛況なお祭りの一日となりました。



★日吉台地下壕を知っていますか？

はい：32名、 いいえ：15名

★日吉台地下壕を見学したことがありますか？

はい：8名、 いいえ：39名

☆キャンパスウォークの感想（午後1時の部）

運営委員 上野美代子

今年はお天気に恵まれて、私たちのブースにも、多くの方々が足を止められ、写真を見たり、話しをしていられました。1時からのミニツアーには、普段は参加することのできない小さなお子さんを含めて10名でした。福沢諭吉像から出発し、理工坂から第一校舎へ、第一校舎は普段は外側だけですが、今回は玄関を入り説明を受けました。そして地下壕入口へ行き、チャペル、堅穴抗へ。参加者の中の小学校2年生くらいのお子さんが、学校でタケノコ掘りをした場所が、艦政本部地下壕のところで聞いて驚いていました。地域の方々と交流ができる貴重な一日でした。

☆キャンパスウォークの感想（午後2時の部） 運営委員 佐藤宗達

2時スタートの第2班を案内した。お子様連れもおられ最終的には31名となった。まず福沢諭吉の胸像前から始める。小学生に「この人わかる？」と聞いたがわからない。「1万円札の肖像の人です」と云うと母親がサッと1万円札を出す。「アッ、この人だ」。台座に生誕150年記念、昭和60年建立とあるので福沢諭吉の生い立ちと慶應義塾の成立を説明した。

その後は人事局地下壕の入り口を見に行く予定であったが1時出発の第1班が草が深くて近寄れなかった事から止めて第一校舎に移動、阿久沢会長から説明して貰う。第二校舎との間で左右対称を実感してもらい、カップ前で定例の説明。その後、正面玄関から内に入り、床のペンのマークと鷲のマークの説明などしました。定例見学では廻る時間がないので貴重な見学でした。

それから蝸谷に降り地下壕入り口前で地下壕の説明、上に戻りチャペル前、堅穴抗前で説明、そこで解散した。堅穴抗前で31名の列を見て定例見学会同様の人数に驚かされたツアーでした。



キャンパスツアー（福沢諭吉の胸像前での案内）



キャンパスツアー（第一校舎内部）阿久沢会長による説明



今回の日吉フェスタの主役「お神輿」担ぎ手は職員のみなさん！！



日吉フェスタのキャラクター
ヒヨウサ君で～す！！

戦争体験者の聞き取り

航空本部地下壕で勤務した女性理事生のお話《連載第2回》

福井(旧姓杉浦)寿美子さん、中川(旧姓梶)雪子さん

2013年11月30日聞き取り 聞き手:山田譲、都倉、山田淑子、長谷川、亀岡 イラスト:山田譲

航空本部地下壕の思い出

【地下壕への出入りと日光浴】

山田譲 そうすると雙葉学園と思われそうですがその寮からは電車で通われるわけですか？

中川 そうです。歩いて駅まで来て電車で通いました。

山田譲 東横線ですね。そうすると、東横線の日吉駅で降りて。

中川 今も考えていたんですが、歩いてどういうふうに入ったか。そんなにたくさんは歩いてないはずなんです。それで結構私の記憶は、下りてったと思うんです。それで、下は湿気が多いから、上に1日1回は出なきゃいけないって言われて、追い上げられたことがあるんです。ただ、また戻っていくのが大変だからってみんな横着してたんですが、そんな記憶あるんです。

福井 そう。その横着してたっていうのが、今のバレーコートのある所ではないかと思うんです。あそこには出てった……。

中川 そう。穴蔵からたくさんは歩いてないわね。「カビが生えるよ」っていわれてね。

福井 ひなたぼっこはしたの。坂道をだらだら下りてったり上がったりはしました。

【食堂、食事の思い出】

福井 それで食堂の記憶がないの。

山田譲 そうですか。昼ご飯たべてますね。

福井 食べてます。けどお弁当持ってたっていう記憶も……。

中川 逸見さん(旧姓近藤サヨ子さん、航空本部第2部2課勤務の元理事生)がこの間言ってた。「食堂に行った」って。

福井 「食堂に行った」って言ってたわね。

福井 こっちの食堂は、全然覚えがない。

中川 ないです、私も。どういうもの頂いたかも分かりません。

福井 日比谷に居たときの食堂は覚えがあるんですけど。

福井 海軍省に居たときには、確かにコッペパンが出ましたし、食パン2枚が出ました。で、コッペパンのほうが、半分食べて家に持って帰って兄弟が食べられるから、コッペパンを喜

んでももらいましたけど、食パンはあまり喜ばれなかった。家に持って帰りたいって気持ちがあったの。それでおかずも今思うとスパゲティなんでしょうけど、それがうどん、よく言えばホワイトシチューなんでしょうけど、うどん粉を溶いた中にうどんが入ってたのは覚えがあります。で、それは割合にみんなから歓迎されてるお料理でした。

中川 なるほど。私は逆に、宿舍の、寮の食事がまずかったので覚えてるんです。そこのがまずくて、もう。それで、みんな交代で実家とか何かの田舎へ戻って、食料を運んできて、みんなで食べた覚えはいまだに鮮明に覚えてます。まずくてもう本当に。ちょっと遅く帰ったりすると、すいとんが、中のお団子が溶けちゃって、全部ドロドロなものしかなかった、そういうものをだいぶ頂



福井寿美子さん(旧姓: 杉浦さん)

きました。そいで田舎へ帰って、大豆を煎って、そういうものをみんな交代でいろんなものを持ち運んで、そういうものを頂いた、そういうことは覚えてます。

山田 譲 その修道院の寮ですが、何人ぐらい理事生は居ました？

中川 それも今考えたんですが、20～30 人は居たのかなっていう気がするんですけど。皆さん焼け出されてて、やっぱり辞められなくてということでも来てました。辞めさせてもらえないので、ということで。

山田 譲 あと東工大にもなんか泊まったとか。

中川 あれ東工大だろうと思うんです。日吉へ来たんですけど、途中に大岡山寄って日吉に行くって話を聞いてて、誰かが大学だっていうふうなことは言っていました。

山田 淑子 前回のときは、東工大にも海軍が入ってたって・・・

中川 らしいこと聞きました。



中川雪子さん(旧姓：梶さん)

【地下壕の記憶】

山田 譲 ちょっと日吉に戻るんですけど、入り口なんです。これは実測図で、こちらに入口の写真がありますが、発掘したときはこういう状態です。で、最初は狭くなって、くびれてるんです。この写真がこの2Aの入り口を、中から外に向かって見てるんですが、スロープになってまして。

中川 片側に机が並んでたんじゃなかったかな。

福井 あまり広くなかったもんね。

中川 うん机が片側しか置いてなくて、壁から水が伝わって、ここの所をチョロチョロ流れてたのは覚えてるんだけど。案外外には早く出られたでしょ？

福井 そうですね。

山田 譲 なんか脇にちょっとこんな部屋があるんですけど。

福井 そんな奥のほうまで行かないから。私たちは自分とこだけですから。

山田 譲 で、もう一つお聞きしたいのは、出入り口なんです。これ掘り出すと、入り口にこういう丸い形でコンクリートが打ってあるんです。柱穴があって、なんか屋根があったんじゃないかっていうふうに思われるんですが。入り口の様子って記憶ありますか？

福井 そんなもんあったかしら。

中川 何しろカマボコ型しか覚えてないの。

【排水溝、照明、壁、床】

中川 水が流れてるっていうのしか覚えてないの。壁を伝わってこう脇にこう溝があって。

福井 溝がちゃんとできてたわね。

中川 そこへ流れ込んで。で、軍員さんがこの中へ礼服を置いておくと、半年ぐらいたつとカビが生えちゃうっていう話は軍員さんがしましたけど。だけど疎開しておかないと、一組こっちに持ってきておかないと、上で焼かれちゃうと困るからっていう話は軍員さんから聞きました。

山田 譲 三つ出入り口があったんですけど・・・。

福井 そんなことは、全然知りません。私が入るとこだけしか分からない。

中川 私もそうだった。入って(向こうに)抜けるってことはなかったわね。そんなに中を歩けなかったもんね。そんな感じよね。

福井 中は何しろ自分の机のところまで行って、そこから帰るだけの道しか行かないし、行

く必要もなかったせいもあるでしょうし。

中川 そうよね。私も、向こうの本庁のほうはしょっちゅう動いたけども。

福井 だけど、中川さんのほうは持ち回りでもって、判をもらって歩いてたから、いくらかは覚えはあるんだろうと思うんですけど、私は全然。

中川 でも、こっち側ではあんまりないの。向こうの所はよく覚えてるんですよ。道を渡って向こうのあの海軍省、霞ヶ関。向こうの本庁はもうたくさんの部屋を歩いてますけど、こっちはあんまり記憶がないんです、私は。確かに穴蔵入るまでそんなにたくさん、駅出たからこう歩いて入った覚えは私はないんですけど。案外早く入っちゃったわね、穴に。出たり入ったりしたのしか覚えてないんです。

山田譲 あと、床はコンクリート？

中川 コンクリートです、コンクリートでしたね。

福井 板ではないです。壁もむき出しでした。

山田譲 机が置いてあって、椅子があって・・・。

中川 蛍光灯がこうなってただけよね、確か。

福井 蛍光灯でしたかね。

中川 蛍光灯だったような気がするんだけど。違ってた？

福井 蛍光灯？ 蛍光灯あったのかしら。照明は分かんないわね。

山田譲 結構湿気は多かったですか？

福井 多かったです。

中川 湿気は多かったです。

山田淑子 息苦しかったですか？ 壕の中は。

福井 そんなことなかったですよ。

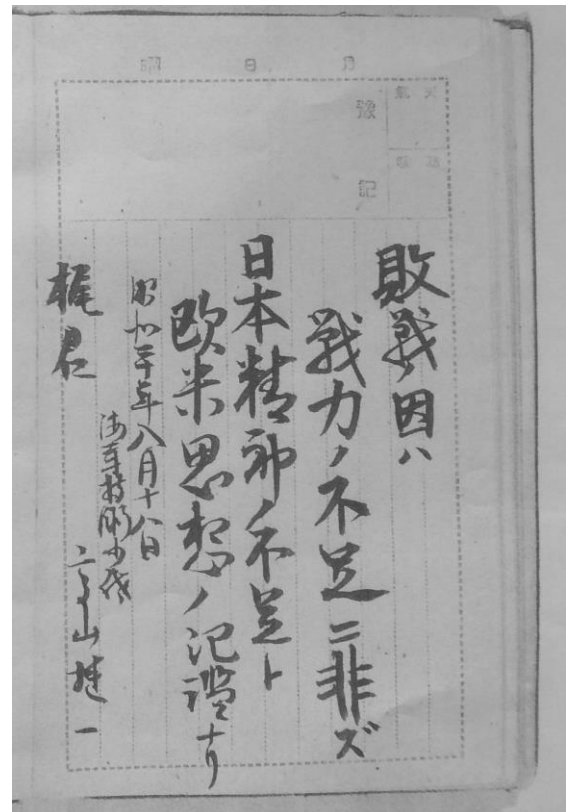
山田淑子 じゃ、やはり自然換気ができるような。

福井 なんかあった。この間入ったとき、大きな排気口があるって言われて、あ、そのせいかなっていうことは思いました。

山田譲 机や棚はそんなにギチギチじゃないでしょ？

福井 ゆとり、普通に歩くっていうのかしら。

ゆとりありましたよ。



中川（梶）さんへのお別れ寄せ書き帳より

【終戦後の書類焼却】

福井 で、私は8月15日以降は日比谷のほうで仕事をしてました。書類焼いたりするんで。だから、ここは8月15日までぐらい、16日は来たかどうかちょっとはつきりしませんが、8月いっぱいにはここには居ませんでした。日比谷のほうの書類を、海軍省の中の中庭があって、2、3日か4、5日。2、3日かもしれないわね。焼いてました。そのうちに、煙がボウボウしてるところで、上のほうの誰かから「いまさら焼いても追いつかないから、そんなのはそのままでもいい」って言われてやめました。

中川 私もあんまり・・・。

山田淑子 持ち回り決裁されている書類というのは・・・。

中川 一切私たちは触ってません。分かりません。軍極秘はどういうふう処理されたか分からない。

【終戦直後の状況と生活】

山田淑子 あとちょっと、前に聞いた終戦後のときに、大西中將が女だけは帰って純潔を守れとかいう話があった、そこら辺の敗戦直後のことと、その当時の生活みたいのをちょっと。

福井 終戦の日は、朝私は日比谷公園のほうに行っただけです。そして朝行きましたら、それ

はとっても印象に残っているんですけど、あそこに今イチョウ並木がありますよね、日比谷公園の中の。あそこの脇に東京警備隊の兵隊さんが、みんな銃を組んで朝休んでたんです。きょうはずいぶんなんだか・・・銃を組んで・・・。

中川 立てかけてね。

福井 で、休んでいるんで、腰下ろしちゃって、みんなたむろしているんで、なんか不思議な光景を見まして。行ったらば、日吉へすぐ来るようにと言われて、日吉へ来たんです。で、そのときのこともちょっと思い出して、歌（短歌）にも作って残してあるんですけど。もう年寄りの人が居て、年寄りと言っては申し訳ないんでしょうけど、もういくらか腰が曲がったような人が居て、ああ、私の父親みたいな人だなと思ったのが印象に残っています。それが、そのバラック建てのほうの宿舎に居たんです。それで日吉に戻ってきまして、今バレーコートの上のちょっと小高くなった所で玉音放送を聞きました。

都倉 軍人さんも一緒に？

福井 居たんでしょうね。おぼえてないんですね。なんか大勢で集まりました。

都倉 そのときの反応というか、周りの様子は？

福井 シーンとしちゃっていました。でも、よくテレビで皇居前でひれ伏して、ああいったような光景はなかったです。泣いてるというような、そういう光景もない。ただシーンとしていたような気がします。その後で、大西中将が、そのときの航空本部長です。（注3——大西瀧治郎は航空本部総務部長をつとめるなど海軍航空畑の中心人物ですが、この時点では軍令部次長で8月16日に次長官舎で自決した。当時の航空本部長は和田操中将）航空本部長の大西中将が、女だけは残るようにと。それで、疎開するように。純潔を守るようにと言われたのは、今の高校生と違って、純潔を守るって、どういうことだかも分かんないようなものでしたけど、そう言われました。

長谷川 そのときははっきり、戦争は終わったとか、負けたとかいう・・・。

福井 そういうことは感じました。放送も、ガーガーしていて分からなかったような状態でしたが、あ、負けたんだなっていう感じはしました。感じはしたっていう程度しか、感じ取れなかったっていうのかしら。ガーガーしていてよく分からなかったっていうか。

山田淑子 中川さんも一緒に聞かれたんですか？

中川 いや、私はちょうど食料を取りに田舎へ帰っていたんです、母の実家に。それで、実家で玉音放送を聞いて、それですぐ取る物も取りあえず戻ってきたんです。こっちの寮に戻って。急いでその日かな、翌日かな。もうやっどこさで戻ってきたんですけど。だから、玉音を聞いたのは田舎で聞きました。ちょうど順番で田舎へ帰っていたんで、「食料取りに行くわね」って言って・・・。

福井 ときどきそうやって休みました。

中川 自分たちが食べたいものを。食事があんまり良くないんで、大豆を煎るとか、いろんなパンを、食べられるものを持ってきて、皆さんで分けて。食べるものを取りに順番式じゃないですけど、行かれる人が行くということで。で、ちょうど私が田舎へ行ったときに玉音放送がありましたんで、取るものも取りあえず戻ってきたんですけど。

福井寿美子さんの短歌

航空本部の記憶

（8月15日 日比谷公園）

公園の公孫樹並木に銃置きて 兵憩い居き敗戦の日に
敗戦の解雇の給料いくばくと 淡き藤色のブラウス一枚

（平成19年1月「歴史は動いた」）

零戦に心血注ぎし高山大尉 九十九（つくも）髪美（は）しテレビに映る

連載 地下壕設備アレコレ【15】**地下壕の穴掘り作業 —1日に何メートル進む?—**

運営委員 山田 譲

連載第14回で、前田建設OBの富士見会の方から教えていただいたコンクリート打設方法について書きましたが、今回はそれ以前の穴掘りの話です。これについて前田建設OBの鈴木八郎さんから、専門家ならではの御教示をいただきました。

鈴木さんには、今年5月22日に地下壕を見学していただいた時に図面資料などをお渡ししたのですが、それをもとにして掘削所要日数を推測計算していただきました。それによると測量図面で一番長い坑道165.5mでは、着工準備の仮設工事・設備工事に15日、掘り上げるのに45日、それをコンクリートで覆工して完成させるのに30日ということで、合計90日(3ヶ月)です。これでいくと9月初めに着工して11月末には完成ということなのです。

では鈴木さんはどういう計算をしたのでしょうか? まず着工準備としては、仮設工事、コンプレッサー設備設置、仮設道路設置等で15日です。その上で、地下壕断面の想定は幅4.1m高さ3mのカマボコ型としています。そうすると、トンネル長1mあたりの掘削量は約11m³(立方メートル)です。またコンクリート厚40cmとして1mあたりコンクリート量は約4.7m³となります。

投入人員は無制限で、いくつもの坑道を同時着工するものとして、

- ①勤務体制——8時間勤務3交代24時間連続作業
- ②人員配置——掘削坑夫4人(切羽左右に2人ずつ)+交代要員2人、積込土工3人(運搬トロッコに1m³の土砂積込み)、運搬(トロッコ押し)土工4人(トロッコ1台に2人)+交代要員2人。以上合計15人。3交代勤務なので15人×3交代=45人。したがって1つの坑道に毎日45人投入。
- ③掘削速度——昭和32年ごろでも掘削は1人1日約6m³だが、土質(硬質土丹層)を考慮すると0.6掛けで1日に3.5m³。これを4人で掘削し、3交代なので1日に3.5×4×3=42m³の土砂を掘り出す。トンネル長1mあたり11m³だったので、1日に42÷11=3.8m掘り進む。したがって最長の坑道165.5mは、165.5m÷3.8m=43.6日ほぼ45日で掘削完了となる。

他方コンクリート覆工(打設)は、1日に6mずつ型枠を組んでコンクリートを流し込むものとして、165.5m÷6m=27.6日で約30日です。以上、合計で90日となるわけです。

また、同じく富士見会の榊原英正さんによれば、「日吉丘陵を構成している土質は硬質土丹層であるため、掘削直後にコンクリート覆工を行わなくても十分自立してくれる地山であり、短距離のトンネル掘削には理想的な地質」とのことです。そして当時の工法で「昼夜交代または3交代で施行するならば日進4~5mは掘れたこととおもいます。」とレポートしていただきました。鈴木さんの日進3.8mとほぼ同じ掘削速度になります。

以上、紹介した以外にも、富士見会の皆さんからは土木専門家ならではの興味深いお話をいろいろ書いていただきました。ありがとうございました。



聞き取り

連合艦隊司令部高級将校は車で地下壕へ

運営委員 亀岡敦子

2013年7月、福澤研究センターの都倉武之さんが行った小島 博さんへの聞き取りに、運営委員の新井・中沢・長谷川・亀岡が同席させていただいた。昭和10年生まれの博さんは「何しろ子どもだったので」と言いながら、記憶をたどって戦中の海軍と戦後の米軍に関する話を聞かせてくださった。小島家はかつて高校グラウンド南側から寄宿舍西側の土地約5千坪を所有しており、地下壕出入口 18aは、小島家所有地内に造られた。寄宿舍前庭から北側斜面に道路がつけられ、それは少し行き過ぎてから左に回り込んで、18aに到達していた。当時博氏は日吉台国民学校生徒で、学区内の下田町真福寺に学童疎開しており、土曜日に帰宅するだけであったのと、壕は自宅からは100メートルくらい離れていたため、実際に黒塗りの車が行き来しているのを見たことはなかった。しかし、家族からは高級将校が黒塗りの車を使用していたことは聞いたことはあったとのこと。

寄宿舍と地下壕を結ぶのは、主に南寮と中寮の間につけられた126段の階段と、マムシ谷側の出入口であり、その証言や手記は残っている。車を使ったのはごく少数の高級将校であることは容易に推測できるし、その頻度も不明であるが、おそらく空襲時の移動に使っていたのではなかろうか。

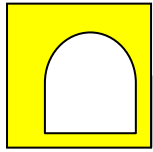
また連合艦隊司令部について、学生時代と連合艦隊司令部員時代を日吉寮で過ごしたR氏の手記に次のような興味深い記述がある。「司令部は外向きには、〈日吉部隊〉と称し、参謀たちは参謀肩章をはずすなどして、どこの何をする部隊なのか分からないようにしていた。隣の軍令部の連中も、一部の人々を除き、隣の日吉部隊が連合艦隊司令部だとは知らなかった。」



地下壕出入口18a 付近



お知らせ



日吉の戦争遺跡ガイド養成講座

～戦争遺跡を歩いて平和の語り部になろう～

毎年 2000 名余りの見学者が訪れる戦争の遺跡・日吉台地下壕のボランティアガイド養成の実践講座です。戦争遺跡を保存するだけでなく、二度と悲惨な戦争をくりかえさないために活用していくにはガイド活動が不可欠です。物言わぬ遺跡にガイドの案内を加えて歴史を語ってもらいます。この活動をいっしょにやってみませんか？

第10期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座

第1回 1月16日(土) 慶応大学日吉キャンパス 来往舎中会議室 13時～15時半
 《ガイド活動の概要》日吉台地下壕保存の会の活動について 昨年修了者の体験・感想
 ☆ 地下壕見学会 (保存の会が毎月行っている定例見学会に実習として参加していただきます。) 1月23日(土) 日吉駅集合 13時～15時半

第2回 2月6日(土) 来往舎大会議室 13時～15時半
 《体験者の話を聞く》 元海軍水兵(予定) 関連資料解説
 ☆ 地下壕見学会 2月27日(土) ガイドの補佐 日吉駅集合 13時～15時半

第3回 3月12日(土) 来往舎中会議室 13時～15時半
 《ガイド活動の実際》ガイドのポイント・用語解説・出典・見学会の実際
 ☆ 地下壕見学会 3月26日(土) ガイドの補佐 日吉駅集合 13時～15時半
 ※※講演会 3月19日13時～ 吉田裕氏(一橋大学教授・日本近現代史専攻) ※※

第4回 4月9日(土) 来往舎前集合 10時～12時・昼食後 13時～15時半
 《フィールドワーク》 日吉駅西側艦政本部地下壕周辺・日吉キャンパス地下壕周辺
 ☆ 地下壕見学会 4月23日(土) ガイドの補佐 日吉駅集合 13時～15時半

第5回 5月14日(土) 来往舎中会議室 13時～15時半
 《まとめ》 ガイドで伝えたいこと、フリーディスカッション・修了証授与

定員 30名(高校生以上) 参加費 2000円(全5回分)

申込先 ハガキ又はFAXで、①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号をご記入の上、
 下記「ガイド養成講座」係へお申し込みください。 〆切 1月10日(日)
 横浜市港北区下田町2-1-33 喜田方 「ガイド養成講座係」
 TEL&FAX 045-562-0443 (午前・夜間)

主催 日吉台地下壕保存の会

後援 港北区役所 ☆この企画は地域のチカラ応援事業の助成を受けています。

お知らせ

来年も、川口重雄さんが田園調布学園で実施している恒例の見学会を、日吉台地下壕の保存会と協賛で行うことになりました。見学場所は以下の通りです。御希望の方は直接、川口先生にご連絡下さい。

川口重雄 Fax 044-722-3184 メール：kawaguchi@chofu.ed.jp

	見学場所	実施日	申込み締め切り
1	靖国神社	2016年3月4日（金）	2016年2月28日（日）
2	防衛省・新宿区内の戦争遺跡	2016年3月8日（火）	2016年1月31日（日）
3	陸軍登戸研究所	2016年3月9日（水）	2016年2月28日（日）
4	第五福竜丸	2016年3月10日（木）	2016年2月28日（日）

お知らせ

平成27年度港北区地域のチカラ応援事業中間報告会及び交流会

運営委員 小山信雄

10月31日（土）の午後、慶應義塾来往舎シンポジウムスペースにて恒例の中間報告会が開催されました。4発表団体（精神障害者に対する支援事業、地域シニア生活相談室、くらしとエネルギーが見える化プロジェクト、35万港北区民が出演、参加する映画制作）、10展示団体（日吉台地下壕保存の会、港北図書館友の会、ちびっこシアター実行委員会など）の参加となり、各団体の活動の中間報告と事業推進懇話会委員からの講評やアドバイス等がありました。

「学びの場であると共に新しい仲間を募る場所である」との発表がありましたが、正にボランティア活動が続けるにあたりとても核心をついた言葉と認識しました。保存の会の発表は今回ありませんでしたが、パネルについて沢山の関心やご意見・感想が寄せられました。



ガイドのベストは地上でも地下でも目立ってます！！

★活動の記録 2015年9月～10月

- 9/16 第23回横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会(法政第二高校教育研究所)
 9/17 運営委員会(来往舎205号室)
 9/20 ガイド学習会(菊名フラット)
 9/25 地下壕見学会 福祉クラブ生協16名 会報122号発送(来往舎205号室)
 9/26 定例見学会 61名
 9/29 地下壕見学会 静岡県立大学剣持ゼミ21名
 9/30 地下壕見学会 いずみ会31名
 10/2 地下壕見学会 ナイスミドルの会・婦人民主クラブ 32名
 10/3 日吉フェスタ キャンパスウォーク参加者41名
 10/10 神奈川県立新城高校放送部からの取材(新城高校)
 10/13 第23回横浜・川崎平和のための戦争展実行委員会(法政第二高校教育研究所)
 10/19 運営委員会
 (来往舎205号室)
 10/21 慶応高校見学会 10名
 10/23 地下壕見学会
 港北見聞録の会39名
 10/24 定例見学会 49名
 10/27 地下壕見学会 慶應大学
 「歴史Ⅱ」(吉岡先生)36名
 10/31 港北区地域のチカラ
 応援事業 中間報告会(来往舎)



連合艦隊司令長官室にて

予定

- 11/10 会報123号発送
 (来往舎205号室)

☆定例見学会について

11/28(土)・12/19(土) の定例見学会は締切りました。

☆☆ 2016年1月からの定例見学会は毎月2回下記のように実施します ☆☆

原則として、第2水曜日10時～12時30分・第4土曜日13時～15時30分

1/13(水)・1/23(土) 2/10(水)・2/27(土) 3/9(水)・3/26(土)

☆地下壕見学会は予約申し込みが必要です。

お問合せは見学会窓口まで Tel・Fax 045-562-0443 (午前・夜間 喜田)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 Tel 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 Tel 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 阿久沢武史

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会